

おに図書館

No.168

発行 代
 代表 青木 和子
 松本市 命牧の原 1-10-46
 TEL 047-311-0886

第十六回

千葉県内図書館関係

市民団体連絡会

報告 武笠紀子

1月26日(日)に松戸市子ども読書推進センターで開かれた会合に参加しました。参加団体は、市原・君津・千葉・松戸の4団体。担当は「おに図書館」でした。

前半は常世田良さん(立命館大学教授)の講演会。その中で伺った電子書籍の話に驚きました。

紙媒体の図書の世界に、パソコン等で見ることでできる「電子書籍」が参入してきているという話です。

電子書籍には二種類あることが

分かりました。

一つは、始めから電子情報として存在するもの。もう一つは、紙媒体で出版された書籍を電子化するものです。

電子情報は書籍というよりは電子データであり、従来のペーシをめぐって読み進むという書籍の形態ではなく、パソコンで検索してデータを見るものです。

先頃「携帯小説」なるものが流行りましたが、これは電子書籍というよりブログを続けているようなもので、「小説」というジャンルには入れ難く、電子書籍での小説やエッセイなどは、これからだそうです。

もう一つは、紙媒体の書籍を

電子化する「電子書籍」です。世界的には、グーグル社が3千万冊ほどの書物を、すでに電子化しているそうです。ただし、日本語の書物は、まだ100万冊くらいだそうです。

日本では国立国会図書館が、所蔵しているすべての電子書籍化を進めていて、これまでに1969年出版までの所蔵書籍の電子化を終えたそうです。

しかし、グーグル社の電子書籍と国立国会図書館の電子書籍化には、違いがあるそうです。

グーグル社はすべてを記号化しての電子化なので、「語句」からの検索が可能ですが、国立国会図書館の電子化は単純なスキヤンなので、「書名」か「作者名」でないと検索できません。語句からの検索を可能にするためには、もう一度電子化をやり直す必要があるとのこと、二度手間になるのではないかとの指摘がありました。

圖書の検索がカードからパソコンに変わって戸惑ったのは、10年ほど前のことです。

電子書籍化が急速に進む中で、図書館の在り方をどう変えていくのか、考えていかなければならぬと思います。

後半は各団体からの活動報告。次回は、満室で開催の予定です。



第三回

松戸市立図書館見学

(八柱分館と本館)

塩崎俊一

松戸市立図書館見学の最後は、八柱分館と本館を見学しました。

八柱分館

八柱市民センター入口正面で、距離感が近く、入り易い。

館内のレイアウトは、他の分館

と比べ平準。

。入口左側のアイウエオ順作家名による小説群は中高年対象。

「教養・娯楽」の貸本分野の色彩が濃く、昔ながら違和感があったのに、と感じた。

。八柱・新八柱駅から徒歩10分余り、牧の原田地行きバス停から数分だが、案内表示が無く、ごく近くの人しか判らない立地となっている。市民センター表示も目前の電柱巻きししかない。

遠目の見通しでは発見できない。

八柱市立図書館本館

。流石本館というべきか、分館と異なる所蔵ホリユームを感じた。閲覧者も多く、それだけに各階フロアに余裕なく、息苦しく、座居場所でも通過人に気を使い、読書に集中できない。(伊勢丹8階ジュンク堂と大差)

。1階児童室の隅に原子力や放射線関連本が多数あったが、こ

れはやさしく图解・解説した本であるとは言え、大人の現在一番必要な知的要求に応え得る本とも判断出来る。検討の余地ありと思う。

。県立図書館との差異と特色が表

示されていたが、全国紙・地方紙・業界紙等において、市立本館はスペースに余地ないとしても、県立も西日本の地方紙は置いてない。

地方紙が地域の課題をその取材・調査によって掲載している事で、それはカバーして欲しい。

。生涯学習のサポートも県立と市立との差異に挙げているが、県立西部図書館のコーナーで、その様なサポートをしている様に見える。

い。公民館活動と連携し、市でこそ取り組むテーマだと思ふ。

私が一番利用するのは本館だが、事務所のある4階に行ったのも、

神童子



学習室(5階)を覗いたのも初めての経験だった。

3階に「郷土資料」というコーナーがあったが、「行政資料」とどういいう区分けをしているのか、

確かめるのを忘れた。

改めて振り返って思うのは、狭くて古いという印象。本とじっくり向かい合いたいという気分にはなれない。

それでも割と気に入っているのは「子どもの図書館」。出版されて間もない可放射能の大研究という本がすぐ借りられたのがきっかけで、よく見渡してみると、なかなか良い本が並んでいる。この時は紙芝居のコーナーに気が付かなかったが、後日行ってみると「日本国憲法」シリーズなど、良いものがある。けれど、見た目も内容も古さが気になる。予算が無いのかな?残念である。

子どもたちがゆっくり本を読み

来るには、スペースが足りないとも思う。



武笠紀子

松戸市で言う「図書館分館」とは通称で、館長がいない、読書スペースもほとんど無い、司書も配置されていない状態なので、単なる「図書館分室」というのが現状です。

八柱分館も他の18分館とほぼ同じですが、規模は小さい方だと思えました。子ども向け図書が比較的多い割に、大人向け図書があきれるくらい少なく、読書スペースはいくらかありましたが、図書貸出しのための場所という感じでした。

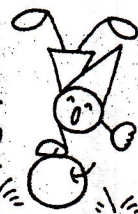
今は、インターネットで予約すれば、松戸のどの館(本館・千葉県立図書館も含め)からでも図書を借りること。返すこと

かできるの、その受け渡し場所としては便利かもしれないとは思いますが、それでも疑問です。

その後、本館も見学しました。

5階は学習室、4階は事務所、3階は参考資料室、2階は一般図書と貸出し返却、1階は子ども図書。どこもぎゅうぎゅうで、ゆとりのスペースがありません。入口付近も自転車置き場と図書館用自転車置き場で、びっさり。1階の階段エレベーター前に少し空間があるので、他がぎゅうぎゅうなので、無駄なスペースに見えるくらいです。3~4万人程度の街ならともかく、48万人の松戸市では、がっかりな図書館です。

松戸市では教育・文化が蒸るにされていて、市民は教育や文化に関心が無いと思われるかもしれません。しかし、ここまで果たら、時代の要求に応え得る新しい図書館像を本気で探求してほしいです。



青木和子

工事中のために前回訪れることができなかった八柱分館と、一連の見学会の最後に本館を見学しました。

この2館のデータを次に記します。(2013年度版松本市図書館要覧より)

・ 八柱	延(床)面積(㎡)	蔵書(冊)	視聴覚(冊)	貸出(冊)
・ 本館	1,932	103	18	0
	149	7,406	216	74

八柱分館―市民センターの入口を入ると、一階正面にあるので入り易い。

明かるく感じるのは、書架が低い所為か。

奥の、ガラス窓で仕切られた閲覧コーナーは、落ち着ける。

蔵書は、他の分館と同様、子ども向け圖書の割合が多い。

○本館―延べ床面積1,932㎡は、1階と2階の合計。そのうち、4階は事務室、5階は学習室にあてられ、図書館機能を持つのは1階と3階。人口48万人の松本市の図書館本館としては非常に狭い。以前から疑問に思っていたのは、蔵書収容能力が8万9,294冊であるのに、実際は図書資料だけでも14万9,294冊を収蔵していることだ。図書館の建物は頑丈に造られているとは言え、この様に能力を超えた蔵書収容は危険ではないのか。

職員の方々の努力だけではどうにもならない限界を感じた。

2013年度は、松本市立図書館の、本館と19分館すべてを見学するという計画を立て、1年間をかけて実行しました。

その結果、松本市の図書館は、市内をほぼ隅無く配置されている

ることが分かりました。一方、分館というには余りに狭く蔵書も少ない館が多いということも、実際に見ることでできました。

図書館職員の方々の日頃の努力が報われることを願い、松本市全体を俯瞰した図書館政策・図書館構想を学習することで今後につなげたいと思いました。

松本市図書館整備計画審議会

2014年6月から、いよいよ「図書館整備計画審議会」がスタートし、松本市の図書館政策は大きな一歩を踏み出しました。

委員長には常世田良さん(立命館大学教授)が選出され、今年度中に6回の会合が予定されています。可能な限り傍聴し、進捗状況を見守り、市民の声を届けたいと思っています。

皆様のご参加をどうぞよろしくお願致します。